

永浦古墳群

永浦古墳群は古賀市北西部の鹿部永浦に所在し、立花山から北東方向に延びる丘陵上に築造されています。古墳群は、南に立花山、東に鹿部山、北に玄界灘を望む粕屋地区北部（古賀・新宮）の平野部を一望できる位置にありました。



写真1 永浦古墳群全景（東側より）



写真2 出土した 遺物

- ① まびさしつきかぶと 眉庇付冑 冑の正面に朝鮮半島にその祖型がある庇の付いた冑。特に九州地方で多く出土する。
- ② さんかくいたびょうとめたんこう 三角板鋏留短甲 5世紀前半から現れる三角状の鉄板を鋏留めした日本独自の技法を用いた胴部を守る甲。
- ③ けいこう 頸甲 短甲とは別造りにした、首を防御するための甲。
- ④ かたこう 肩甲 肩・上腕部を防御するための防具。短甲の付属具として用いる。

同古墳群は、平成9年12月から平成10年8月に市教育委員会により文化財発掘調査がおこなわれました。

永浦古墳群が造営された5世紀は、大陸や朝鮮半島との交流や進出が活発な頃で日本でも新しい技術や思想が導入されました。

この様な時代背景のもと、玄界灘を一望できる鹿部の首長は、4号墳の副葬品として豊富な武器・武具、工具、金環、小壺等を残すことで、当時の葬送儀礼の方法から朝鮮半島情勢にかかわる軍事を中心とした政治課題に取り組んだ活動などさまざまな事柄について語り掛けてきます。

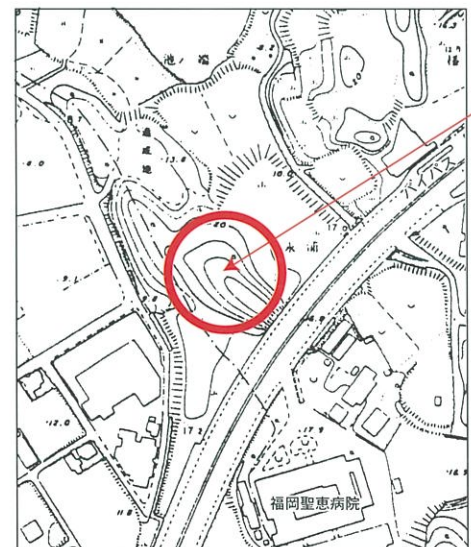


図1 永浦古墳群位置図 (S=1/5000)



写真2 石棺内

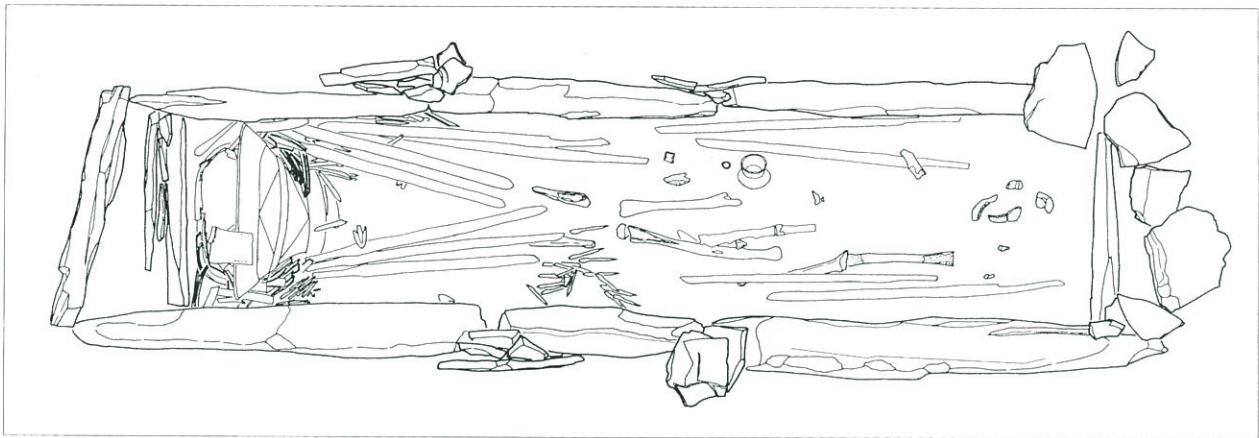


図3 石棺内遺物配置実測図 (S=1/20)

永浦古墳群は5世紀前半に築造され、現状で4基の古墳から構成されています。

1号墳は、国道3号線により墳丘を削平され、わずかに墳裾を残すのみで、詳細は不明。

2号墳・3号墳は、墳径10m未満の低墳丘墳で、埋葬施設は木棺・土壙を採用しています。副葬品は、2号墳に鉄刀1口・刀子2点、3号墳に白玉が埋葬されていました。

4号墳は、墳径20m前後の円墳で、埋葬施設は竪穴式の墓壙（墳丘の上から穴を掘り、穴の中に埋葬施設を作る構造）に、箱式石棺を採用しています。石棺には被葬者の人骨と共に甲冑を中心としたきわめて優れた内容を誇る典型的な古墳時代中期の副葬

品がありました。被葬者の両腕部に鉄刀2口ずつ、右脚

部に鉄刀2口、腰に鹿角装短剣1口、両手周辺に金

環1対、右腰部周辺に小型丸底壺1点、脚部から

足元にかけて5群に分かれて鉄鎌多数、足元に甲

冑1領、(横矧板留眉庇付冑・頸甲・三角板鋌留短

甲・肩甲)、工具(鉋・刀子等)甲冑に合わせて鉄

剣4口、鉄刀1口石棺西側両隅に袋状鉄斧1点

ずつを副葬していました。また、石棺の石材は相

島産のアルカリ玄武岩が用いられていました。



写真3 甲冑配置図